

奈良文化女子短期大学 幼小接続ワーキンググループ合同研究会
第37回 議事録

- 1 日時 平成24年6月16日(土) 11:00~12:30
2 場所 奈良文化女子短期大学 本館 5階(第1演習室)
3 参加者 15名
4 内容

(1) 「幼小接続資料・実践報告から学ぶ」と題して(善野代表)

① 日本生活科・総合的学習教育学会徳島大会の研究報告

- ・ 新潟県上越市大手町小学校の資料から
幼・保・小をつなぐ みんなが安心のスタートカリキュラム～「大手町小・安心スタートプラン」～
文部科学省の研究開発学校として、特に総合的な学習の時間の研究開発に優れた成果を収め、今も全国に研究成果を発信し続けている学校の発表内容の概要説明を善野代表から聞いた。特に資料では、入学初期の子ども・保護者の安心を実現するためのきめ細かい連携事例が報告された。その特色は、月齢に対応した仮クラス編成のスタートと教育サポーターの活用である。小学校側からとらえた幼小連携についての理解を深めた。
- ・ 広島大学附属三原幼稚園の資料から
「つくって遊ぼう」～身近な素材を使って音をつくって遊ぼう～
文部科学省の研究開発学校として、長年幼小連携の在り方についての研究に取り組んでいる三原幼稚園の実践事例をもとに、幼稚園側からとらえた幼小連携についての理解を深めた。

② 日本生活科・総合的学習教育学会徳島大会でのミニシンポジウム

生活科を核とした幼保小の連携・接続～幼児教育と小学校教育の共通点と相違点を踏まえて～

シンポジウム資料にある「連携から接続へと発展する過程のおおまかな目安」に着目し、ステップ0からステップ4までのうち、多くの小学校・幼稚園ではステップ2からステップ3へと、段階を上がれない実態にあることを参加者たちは共感的に受け止めた。

善野代表からは、ステップ2「年数回の授業、行事、研究会などの交流があるが、接続を見通した教育課程の編成・実施は行われていない。」から、ステップ3「授業、行事、研究会などの交流が充実し、接続を見通した教育課程の編成・実施が行われている。」へ、どのようにステップアップしていくかは、本研究会が目指している研究の方向性と同じであること、また「連携」から「接続」へと発展していく場合に、方法としての「連携」、そして目的としての「接続」というとらえ方が大切であるとの指導があった。

(2) 接続カリキュラム作成作業について（善野代表）

① 作業目的を明確化する上で、善野代表から次の視点について指導があった。

- ・ 知識基盤型社会を生きていく子どもたちに付けたい力をサイクル化して明確化することが大切である。

「知る（知識）→分かる（思考・判断）→できる（体験・技能・習得）→使える（活用・探求）」

- ・ 「援助・支援から指導へ」と指導観の転換を図るためには、時間・空間・人間・モノ・技能・心情の6要素が大切であることを説明。

時間・・・計画・個に応じた枠組み

空間・・・環境設定、活動場所

人間・・・人間関係能力を育む出会い

モノ・・・教材・教具、自然・社会事象

技能・・・スキルと発達段階の把握

心情・・・子ども理解と働きかけ

- ・ 「3つの自立」の育成が、幼小接続のポイントになる。

「学びの自立」、「生活上の自立」、「精神的な自立」は、2011年に文部科学省の調査研究協力者会議のまとめで報告された内容であり、次のワークショップの視点になるものとして、参加者の共通理解を図った。

② ワークショップ

- ・ 幼小関係者が混合で2つのグループに分かれ、「豊かなコミュニケーション力の育成」のモデル図をもとに、就学後の子どもの育ちと学びがつながる活動構想を出し合うことから取り組んだ。

- ・ ワークショップの目的は、幼稚園年長児から小学校1学年に入学する段階を中心に、1年間のスパンでカリキュラム構想を立てることである。その際、子どもの実態、幼稚園・小学校からみたそれぞれの課題を出発点とした。そして、どのような交流活動をこれまで行ってきたか、またどのような合同授業が考えられるかなど、具体的な活動を時系列に整理しながら出し合った。

〈1つのグループで出された活動例〉

七夕まつり会への参加、学校探検、給食体験、学校散歩、買い物ごっこへの参加、小学校校庭でのドングリ拾い、一緒に昔遊び、合同おもちゃランド、合同交通安全教室 など

〈入学期の子どもの実態例〉

困ったことが自分で言えない。

話が聞けない。

遊びの経験が少ない。

基本的な生活習慣が身に付いていない。

③ 各グループのワークショップの報告

- ・ どんなことが課題かを考えたとき、よりよいコミュニケーションがとれることが一番の課題である。
- ・ どんな活動が考えられるかを考えたとき、幼小それぞれの環境のよさを生かす活動を構想することが大切である。

(3) まとめ（善野代表）

- ・ 活動がイメージできるものを出し合い、そこから見えてくる課題について整理していくことで、課題がより具体化される。
- ・ 日常的に交流ができる園、特設的に行わなければならない園など、状況は異なるが、幼小連携・接続の必要性・大切さに気づき、意識を共有できる活動が、幼小接続上好ましい。
- ・ 本会の研究内容の充実を図る上でも、本物の幼小接続の実現を目指す上でも、小学校関係者の参加がさらに増えることを期待する。

(4) 参加学生の感想

今日の研修会の中で、「小学校の 20 分休憩の時に幼稚園を開放して、小学生が砂場や三輪車で遊んでいる」という事例が継続してできる活動を画期的だと思いました。また、「校庭での春みつけ」のように幼稚園からの連続した活動の流れがあって、入学後にも繋がっていく活動であることも大事だとわかりました。そして、活動の中で「自己肯定感」が生まれるということも印象に残っています。

子どもたちのために、先生方が小学校や幼稚園に戻り、この研究会で得た情報や助言を生かし、より実りのある活動になるように苦心、工夫、努力されているのが伝わってきました。私も今日、得たことを「使える」ようにしっかり自分のものにしていきたいと思います。

貴重な場に参加させていただきまして、ありがとうございます。

5 次回の予定

平成 24 年 7 月 21 日（土） 11：00～12：30

※ 毎月定例は、第 3 土曜 11：00～12：30